

# 西アフリカ 滞在記 Ⅲ

3/11 (金)

今朝はオニぶる調子がいい。昨夜、歓迎のおまわりをしてくれて、太鼓をたたかしてもらったが、お腹がゆるくて、気が入りなかつた。でも今日は快調!! やほり体が資本なんだ。

午前中のワークの時間には、今回の一つの目玉であるケニア島のワイドショー、アフリカ人も混じって、みんなが足取りと唄を覚えた。みんなこの唄を聞いたと気に入ったらしく、道行く人が口ずかしてたり、歌をしてくれてと言ってきたりと、ワイドショーがこの速くはばれた場所でも流行、してきた。今日のツアーは、アフリカ人、日本人、混合チームでいくつかの村を演奏旅行するというのが目的だ。みんなでお話し合っ、演目を決めて準備をした。移動や食事のストレスやら、少しみんなの表情に疲れが出てきたので、夕食後、ミーティングの時間を設けてもらった。このミーティングで、今、この場所にいるメンバーで居られる事に感謝を伝えたい事が一番大切という事を伝えた。疲れや小せしさを混じり、目的を見失いそうになつていったからだ。このタイミングで話せてよかったと思う。

夜は、Feのおまわりをやった。周りの村からグリオの人たちが集まってきた。しかし、よく毎日毎日人が寄り合っ、おもしろおもしろ、毎日同じギョウを言っ、合っ、なから仲良くやっ、いるもんだ。早に届く所に何でもあつても何もしていいのなからな、日本の友だちや仲間とはたつとさな居るな何もな、ウカシテア、どちうが人といふ事せん。

あと一つ、日本人が見習わなければいけないと聞いたのが、ミーティングの時、その人の意見を最後まで聞いてみる意見と言っ、合っ、というスタイルが可ばらしいと思った。まずは認めて合っ、それを意見と交換する。みんな真剣な話の最中でも、ニヤニヤしたりしていったが、基本的には聞いていたのが、すげえ大切なやりとりだと感じた。

3/12(土)

今日は休けいの日。午前中はのんびり過ごす。午後、いつもの木の下で日本人向けの練習会をやる。わんぱくは、所々石垣を築き合った。こらいう時間が大切。衣裳もどきた。夕方、日が陰、こらう散歩に出掛けた。ファティンバの案内で、巨大なバオバブや Djembe になる木レンゲなど木の学校やらいろいろ見せてくれた。バオバブの木の下に居ると、どこかともなと音楽が聞こえてきた。ふと見ると、近くの村から フーレ (笛) フォラヒ、ボロン (世界最古のベース) フォラヒが奏でながら歩いている。その後ろで子供たちがどろどろ付いて歩いている。赤土に映え、映画のワンシーンだった。夜のお祭りも、フーレとボロンを中心としたおまつりだった。大切なポジション、サンバンもやらせともらった。身もまかせと演奏している。自分が無くなる、ゆけ感覚になった。これを味わえたのはありがたい。フレフォラのバンガリさんと、ボロンフォラのファツリは、いよいよメディスンマンになった。お祭りでも、いろいろな歌を演奏してまわっていた。その都度、演奏してくれ、ジンバヤケニまたたかせともらった。感謝 感謝。

3/13(日)

朝、心配がニュースが耳に入った。いつもはフランス語のみの放送だったラジオが突然英語のニュースが流れてきた。フクシマでニューヨークアーサシディンがあり、地震の事がいよいよ。と、耳を疑った。福島はラジオやテレビで何屋も訪ねてきて頂き、友だちも知り合、もたせんと居る。家族の居る横浜をどう遠くはたない。心配になったが、遠くも取る手段が皆無かった。この村にどんかほはなく、この先、廻る村にもどんかインターネットもない。家族が心配だ。空を見たら、想像した。テレビも遠く、それしか手段がなかった。どうする事もできなかった。とりあえずこのタイミングでこの場所を自分にできる事に集中して、これは問題ない自分に言いませた。と、いふとそれしかできなかった。

この地に来た。ここへ来たや、し自分が今までや、してきたことと、  
学ばなければいけぬ、こと。これからのビジョンが早くびびった気が  
する。地に足を付けていけば、無理しなければ高望みしなければ  
実現する。仲間を増える。何一つムダというものは存在しない  
実感。ニュースを聞いたりせず、と氣になっ、というが、空にうりや  
したり、もう想うのはやめようと思った。ただ信じようと思った。  
信じる事しかできなかつた。

3/4 (A)

休日。日本のニュースを聞いたりみたり落ち込んでいた。体調も  
崩す人も続出。午後、シテツアビ山羊をさばり、2匹の子を見た。  
あれ? よく見るとさばり、2匹の子はギターの先生だった。みん  
生命が、あ、すげえな、と正直思った。日本人、都会人は  
軟弱ななあ、と。日本に帰ると、何にでも本能が、  
矢張り、じゃなく、足、売、をつけよう。生きる知恵。ま、と  
日本も混乱し、しやくに違いなし。この原始生活の村で、得た  
力を日本に帰ると、活かした。

3/5 (B)

今日の予定は、自分たちにとり、ネオス、狼の安全を祈り、2匹の子  
をさばり、山羊をさばり、ことだった。自分たちで、あの子や、をさばり、  
と、思、ていたら、な、な、な、と、山羊が、月見、  
い、も、走、る。毎日が、コント、な、な、だ。その、  
帰、て、きた。み、な、な、と、思、も、の、ん、ど、見、て、いた。皮、を、は、ぐ、を、一、人、  
手、つ、た、た、た、ジンバ、に、張、ら、れ、い、る、ヤ、キ、の、皮、の、大、切、さ、を、知、た。  
日本のジンバ、た、た、き、も、こ、の、こ、も、知、り、知、る、バ、い、た、と、思、た。  
狼、の、命、も、木、の、命、も、い、た、た、い、は、い、ぬ、と、ジンバ、か、た、た、け、る、事、も  
感、じ、た。

昼からはサッカー大会が聞えた。三好車、カッパと題して  
車、が、ス、ポ、ン、サ、ー、し、た、も、ん、た、か、い、ア、フ、リ、カ、人、た、は、大、然、と、い、た。  
な、に、せ、日、本、し、か、強、烈、さ、き、と、サ、カ、ー、ど、い、る、と、は、な、か、つ、た。



このやる気やなせも手伝い、完結した。サッカーを見ていた子供たちは、  
ナラ、ジンバ、アカイン。(ナラ、ジンバはGOOD) ボロニ、アマイン  
(でもサッカーはNO GOOD) と、毎日言われる様になる。  
この日は夕方から僕たちグループの練習も、木のまわりがあった。  
このまわりが最高にみもしろかった。みんな仮装して、金陵浴屋士、チム、  
女の子たちが男装するチーム、農民チーム、漁民チーム、カッサカワ  
など、出し物がいっぱい、くり返るげらあった。その出してくるチームごと  
に、みんながうたがまわ、いった。こうゆうものはないかなと、思  
おう。みんなと生活が一体になった。たまたま音楽ではない。  
それなのに、アフリカの人はみんな、芸達者だ。演劇したりするの  
も、ちがちな感じがする。話しをする時も話し方をスリットした。  
思ったままに生きていく。みんな、シヤウたいけい、やる時はやる。  
素朴な動きや、おもしろい表現で、みんなはほんとにすばらしい。

3/16.

同行している肉さんの体調がすぐれず、今日より予定していた  
村まわりが延期になり、思いがけず、休みの日になる。なんでも  
癒れさ、といったので、丁度いいホースになった。何もしない一日。  
日本でこのようにゆったり過ごして、いいな。ここ何年か、必死で  
毎日忙しかつたりやり続けさせた。ひさぶりに休んだ。  
夜、シンセレーターを動かして、木村にデニス君が出現した。  
アフリカのデニス君は、大勢もどきも入り混じり、おもしろい、  
前回11年前に来た時をアフリカのデニス君最高！と思ったけど、  
やはりサウーに楽しかった。曲もアリのリタ、し、おもしろい、踊った。  
楽しい時間は楽しいが、すぐに日本の事が頭をよぎる。  
また進むことはとれたいな。しかもこのじいさんが、明日より演劇演  
習、せや、する場合は、自分に合う。でも今日は、やめる事を  
命かけてやる。アフリカ、日本にも住むと信じてやり続け  
たな、と思った。すべし、このことに感謝を忘れず、いいたい。  
まずは今日の安心に感謝。